

竜門ダム周辺地域活性化基本方針 (案)

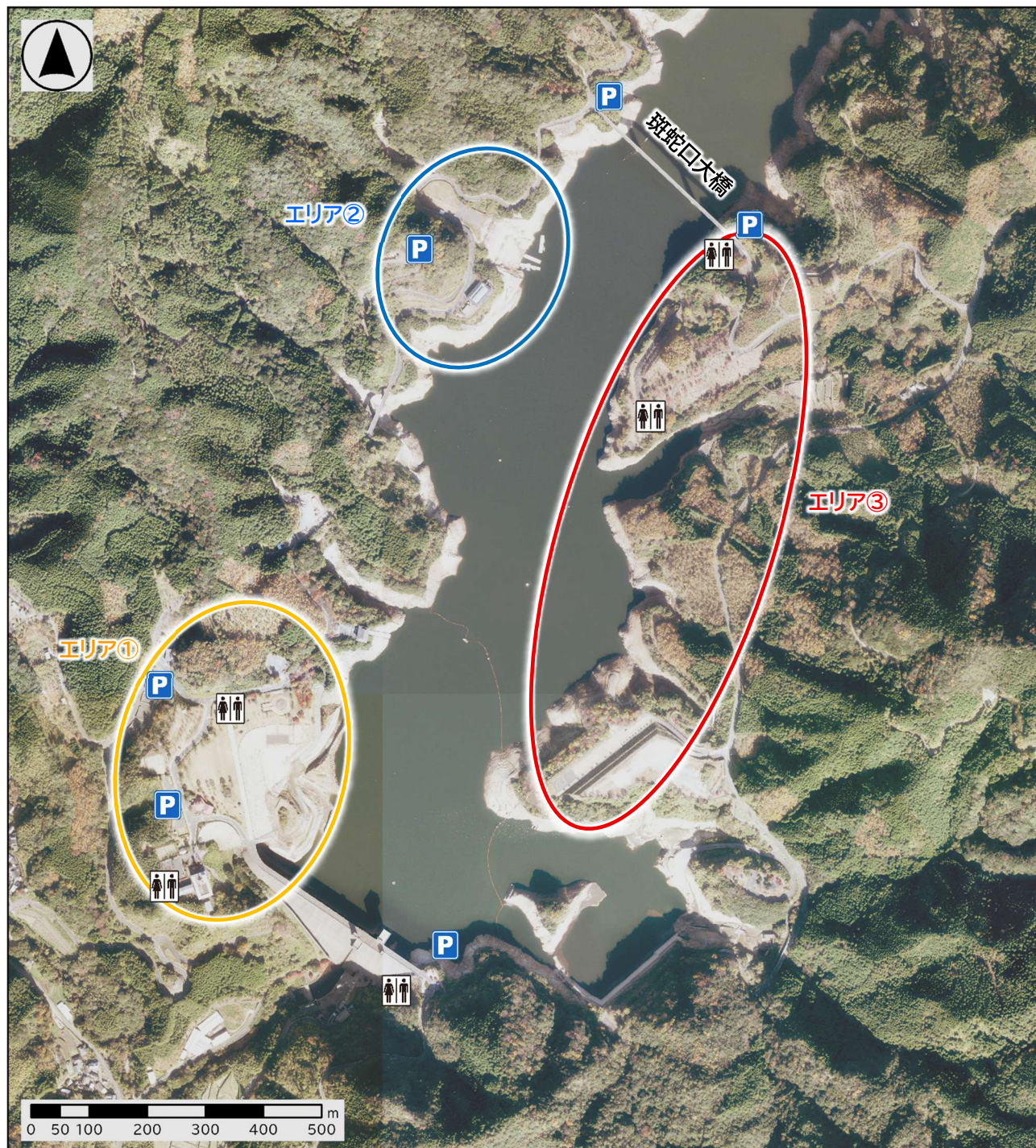
令和8年 月
菊池市

内容

第1章 竜門ダム周辺地域活性化の基本方針	3
1. 竜門ダム周辺地域の概要	3
2. 竜門ダム周辺の現況特性	4
3. 竜門ダム周辺地域活性化の基本方針	10
第2章 活性化に向けた施策と取組の内容	12
1. 基本方針の全体像	12
(1) 竜門ダム周辺地域活性化基本方針の全体像	12
(2) 実現に向けた施策の設定	13
2. 具体的な施策と取組内容	13
第3章 実施体制	19
第4章 取組実現に向けて	21

2. 竜門ダム周辺の現況

本計画は、竜門ダム全域のうち斑蛇口大橋より南側を対象とします。対象範囲においては、ダム管理棟をはじめとして、広場や艇庫、サイクリングロード、キャンプ場など、特徴あるさまざまな整備がされてきました。基本方針を設定するにあたっては、特徴的なエリアを3つに区分して検討のうえ、エリアを横断する全域的な施策と併せて整理するものとしします。



■本計画の対象範囲とエリア区分

1) エリア①

ダム管理棟やロンロン館があり、ダム見学者やキャンプ場利用者等が最初に立ち寄る場所として、ダム全体のエントランス機能を担っています。また、芝生広場やドラゴンキャンプ場などでダムフェスタ等の各種イベントが開催されており、様々な年代の利用者が訪れます。

芝生広場は日当たりもよく、ベンチなどもあり、利用者が自然豊かな景色を見ながら、休憩することができます。一方で、広場に監査廊入口があり、その周囲の樹木がうっそうとしており枝などの管理が行き届いていない箇所があり、良好な景観を阻害しています。



■エリア①の施設位置図



■エリア①の状況写真

2) エリア②

竜門ダム湖には直線 2,000m のポートコースが整備されており、艇庫兼研修センターやリギング広場等の充実した施設を備えています。春から秋にかけてはポート競技の大会や日本代表合宿の会場として活用され、冬にはワカサギ釣り大会が開催されるなど、季節を通じて賑わいを見せる貴重な資源です。

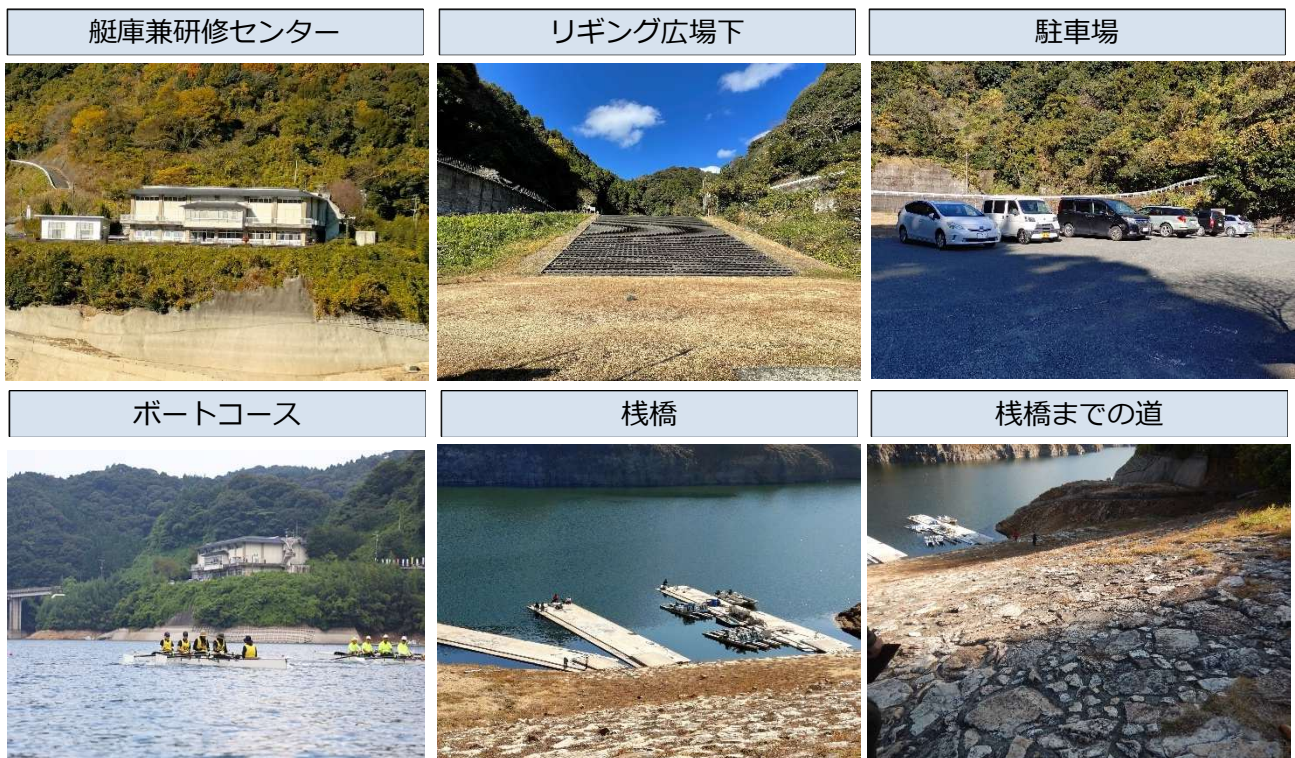
一方で、課題としては、栈橋でボートの大会や釣り大会が開催される際、駐車台数が少ないことが挙げられます。

湖面の栈橋まで降りる階段や手摺はなく、水位によって状況が変わるなど、安全面の課題があります。また、ポート競技と釣りを十分に楽しめるためのスペース確保が求められています。

他にも、ダム湖岸の植生の管理が行き届いておらず、道路から湖面が見えなくなっていたり、道路の劣化が進み景観を阻害している箇所があり、対応が必要です。



■エリア②の施設位置図



■エリア②の状況写真

3) エリア③

北側にはボート競技用の観覧席、菊池市営の風の広場キャンプ場が整備されています。南側には竜門・キッズの森とヘリポート、駐車場が整備され、ダムフェスタの際はシャトルバスの発着場として利用されています。ダム湖岸周辺に遊歩道（サイクリングロード）が整備されており、桜や紅葉が植えられ、ダム湖を見ながら散策できます。

雑草や樹木が繁茂しており、観覧席やキャンプ場から湖面が見えなくなっています。また、水位が下がると釣りができる場所がありません。加えて、トイレ周辺の照明が少ないなど既存施設を活用するための整備が必要です。

遊歩道（サイクリングロード）や階段が草や落ち葉で滑りやすくなっており、枯木が見られる箇所等は、歩行者や自転車が安全に通行できるよう除草や間伐などの管理が必要です。遊歩道や施設の案内看板がないため、場所や入口が分かりにくく、利用者が通り過ぎてしまったり迷ったりする可能性があり、対策を講じる必要があります。



■エリア③の施設位置図

キャンプ場



観覧席



トイレ



炊飯棟



遊歩道



竜門・キッズの森



ヘリポート



ダム湖岸



■エリア③の状況写真

3. 竜門ダム周辺地域活性化の基本方針

重要な観光資源のひとつである竜門ダム周辺地域のさらなる活用によって、龍門地域をはじめ、菊池市全域の観光による活性化を目的として、今後の方向性をとりまとめた「竜門ダム周辺地域活性化基本方針」を策定しました。

また、菊池市の観光振興のため、ウォーカブル構想及び温泉街リブランディング、迫間川での「かわまちづくり計画」と連携して竜門ダム周辺地域の活性化を目指します。

なお、基本方針については、市民や市内高校生を対象としたアンケート調査結果に加え、関係団体や地域住民、市内高校生、庁内関係課等が参加した市民ワークショップにてご意見をいただき、竜門ダム周辺地域全体の活性化を目指すための基本方針を示しました。

●関連計画：第3次菊池市総合計画 後期基本計画、菊池市観光振興ビジョン

竜門ダム周辺地域活性化の基本方針

自然と景観を活かし、 誰もが心地よく楽しめる 竜門ダム周辺地域を目指して

竜門ダム周辺地域は、斑蛇口湖の雄大な湖面、四季折々に表情を変える山林、湖畔公園や周辺集落が織りなす豊かな自然・歴史・暮らしの風景を有する、菊池市を代表する重要な観光資源です。

本基本方針では、この地域が持つ価値を改めて見つめ直し、単なる観光地としての整備にとどまらず、自然と人、地域とまちなか、日常と非日常がゆるやかにつながる、菊池市の新たな交流・滞在・回遊の拠点として育てていきます。

竜門ダム周辺を起点に、龍門地域、迫間川、菊池温泉街、まちなか、食、歴史文化、他の自然観光地が相互に結びつくことで、市内全域に人の流れとにぎわいを生み出し、市民が誇りを持ち、来訪者が何度も訪れたくなる、持続可能な観光地域づくりを目指します。

今後は、3つの方向性を掲げ、「菊池市ウォーカブルシティ基本構想」、「菊池温泉街リブランディング基本構想」、迫間川における「かわまちづくり計画」などとの連携を図りながら、竜門ダム周辺地域を菊池市観光の未来を拓く象徴的なフィールドとして磨き上げます。

豊かな自然環境を守り、活かし、次世代へ引き継ぎながら、市民、地域、事業者、関係団体、行政が一体となって、誰もが心地よく過ごし、新たな体験と交流が生まれる「水と森とまちが響き合う観光交流拠点」の形成を目指します。

●基本方針達成に向けた3つの方向性

① 多様なニーズに応える、自由度の高い空間を創出します

竜門ダム周辺地域を、家族連れ、若者、高齢者、地域住民、観光客、スポーツ利用者など、訪れる人や使う人を限定しない開かれた空間として育てます。

湖畔でゆっくり過ごす人、自然の中で体を動かす人、地域の魅力に触れる人、仲間や家族と時間を共有する人など、それぞれの目的や過ごし方を受け止める、自由度と包容力のある地域づくりを進めます。

誰もが自分らしい居場所を見つけられる空間を創出することで、市民の日常的な憩いの場であるとともに、来訪者にとっても菊池市の魅力を深く体感できる滞在拠点を目指します。

② 自然と景観を守り、その価値を活かした整備をします

竜門ダム、斑蛇口湖、湖畔公園、周辺の山並みや緩やかな地形が生み出す景観は、この地域にしかない大切な財産です。

整備にあたっては、新たな機能を加えることだけを目的とするのではなく、今ある自然資源や空間特性を丁寧に読み解き、この場所らしさを高めることを基本とします。水辺の開放感、森の静けさ、季節の移ろい、地域の暮らしの風景を大切にしながら、自然と調和した環境整備を進め、訪れる人が菊池の豊かさを五感で感じられる空間を創出します。

自然を守ることと活かすことを両立させ、竜門ダム周辺地域の価値を次世代へ継承していきます。

③ 竜門ダムを点ではなく、周辺地域やまちなかにつながる回遊拠点として育てます

竜門ダム周辺地域の活性化は、現地のみを整備して完結するものではありません。

竜門ダムを起点として、龍門地域、迫間川、菊池温泉街、まちなか、食、歴史文化、農産物、他の自然観光地などと結び付けることで、市内全域に回遊を生み出すことを目指します。

湖畔での滞在、川沿いの散策、温泉街での宿泊、まちなかでの食や買い物、周辺地域での体験が一体となることで、菊池市全体をひとつの魅力ある観光エリアとして感じられる仕組みづくりを進めます。

竜門ダムを「点」としてではなく、市内各地をつなぐ「結節点」として育てることで、地域経済の循環、滞在時間の延長、再来訪の促進につなげます。



第2章 活性化に向けた施策と取組の内容

1. 基本方針の全体像

(1) 竜門ダム周辺地域活性化基本方針の全体像

竜門ダム周辺地域活性化の基本方針を踏まえ、方向性・施策・取組を全体像として、整理しました。

方向性	施策	取組	
		ハード	ソフト
①多様なニーズに応える、自由度の高い空間を創出します	1. 遊び・交流の場をつくる	・来訪の目的となるような自然に配慮した遊具の設置 ・子どもの遊びを見守れる東屋やベンチ、テラス等の設置 ・オートサイトエリアの設置 ・じゃぶじゃぶ池の整備	・各スポットの利用案内
	2. 湖面を最大限に活用した魅力的な拠点をつくる	・浮き桟橋の設置 ・釣りや観光など一般利用できるボートの貸し出し ・桟橋付近の足場整備	・釣具レンタルの実施 ・ボート利用と釣り利用のすみ分け検討 ・ボート大会の誘致 ・湖面利用のマナー啓発
	3. 学び・防災に触れる入口をつくる	・監査廊(ダム内部)の安全確保整備	・治水と環境の学習プログラム ・ガイドによる自然観察プログラム ・火起こし、炊飯体験 ・防災キャンプ研修
②自然と景観を守り、その価値を活かした整備をします	4. 安全に歩いて楽しめる環境を整える	・遊歩道(サイクリングロード)の舗装改善、照明整備 ・案内サイン、誘導サインの設置 ・湖面の観覧を図るための樹木伐採	・各種レンタル(自転車、電動自転車、など)
③竜門ダムを点ではなく、周辺地域やまちなかにつながる回遊拠点として育てます	5. 食を通じて交流とにぎわいを生み出す		・週末や繁忙期のキッチンカー誘致 ・定期的なマルシェや飲食イベントの開催 ・手ぶら BBQ プランの造成
	6. 市街地や他の観光地との周遊体制をつくる	・景観修景 ・キャラクターマンホールや像の設置 ・フォトスポット(スマホスタンド、フォトフレームなど)	・市内温泉や飲食店との連携クーポン ・企業や学校、団体等向けの研修プラン ・地域と連携した合宿受入れ環境の整備 ・ワーケーション受入れ ・周辺を結ぶスタンプラリー ・SNS 等での情報発信

2. 具体的な施策と取組内容

(2) 実現に向けた施策の設定

取組については、ワークショップ等での意見を踏まえ、優先順位をつけて詳細の検討を進め、具体化していきます。

(1) 遊び・交流の快適な環境を一体で整える	
概 要	・自然の中で体を動かし、遊びながら学べる場を整えることで、子ども連れ家族や遠足利用の受け皿を強化します。 ・自然に配慮した遊具や安全な水遊び環境の整備に、自然観察ツアーや昆虫採集イベント、釣り体験、フォトコンテストなどを組み合わせることで、単なる遊具広場ではなく、自然とふれあいながら成長できる“体験型の遊び場”を目指します。
ターゲット	子ども連れ家族、未就学児～小学生、遠足・校外学習利用者、祖父母同伴世帯、地域住民
取組内容	・来訪の目的となるような自然に配慮した遊具の設置 ・子どもの遊びを見守れる東屋やベンチ、テラス等の設置 ・じゃぶじゃぶ池の整備 ・オートサイトの設置 ・各スポットの利用案内
期待される効果	滞在時間の延長、ファミリー利用の増加、日常利用の定着、再来訪の促進、情報発信の拡散、来訪動機の強化、利用しやすさの向上、満足度向上、初回来訪の不安解消
整備イメージ	
整備優先度	中

(2) 湖面を最大限に活用した魅力的な拠点をつくる	
概 要	・竜門ダムならではの湖面環境を活かし、ワカサギ釣りを気軽に楽しめる体験として磨き上げることで、新たな来訪動機を創出します。 ・浮き桟橋や貸出拠点などの基盤整備に加え、釣り具のレンタルや初心者向けの釣り教室を組み合わせることで、経験者だけでなく親子や初心者にも開かれた湖面利用を実現し、滞在・消費の拡大につなげます。
ターゲット	釣り客、ボート競技者、親子連れ、キャンプ場利用者、日帰り旅行者、県外からの来訪者、アウトドア愛好家
取組内容	・浮き桟橋の設置 ・ボート大会の誘致 ・釣りや観光など一般利用できるボートの貸し出し ・桟橋付近の足場整備 ・釣り具レンタルの実施 ・ボートと釣り利用のすみ分け検討 ・湖面利用のマナー啓発
期待される効果	体験価値の向上、体験商品の造成、利用単価の向上、来訪前の不安解消、予約率向上、機会損失の減少
整備イメージ	ハード ● 湖面の積極的な活用  浮き桟橋や観光ボートを導入し、竜門ダムならではの魅力をいかした湖面環境を整備 ● 安全性の向上 利用者の安全性向上のため、リギング広場や桟橋までの足場の再整備 ● レンタルや初心者向け教室  釣り具のレンタルや初心者向け釣り教室などにより、親子や初心者にも開かれた湖面利用を促進 ソフト ● 共存のための整備と啓発  ボート利用と釣り利用のすみ分けの検討、利用者のマナー啓発などにより安全な環境を維持
整備優先度	高～中

(3) 学び・防災に触れる入口をつくる	
概 要	・竜門ダムが持つ公共施設としての価値を活かし、防災・治水・自然学習を一体で提供し、親子で体験的に学べる場として活用することを目的とします。 ・じゃぶじゃぶ池やキッズの森の再整備、自然に配慮した遊具の導入により、親子連れが日常的に訪れる“遊び場”としての魅力を強化するだけでなく、ダム見学ツアーや防災士による火起こし・炊飯体験や防災キャンプ研修、治水・環境学習と組み合わせることで、遊びの延長で学びに出会える親子向け拠点を目指します。
ターゲット	学校団体、子ども連れ家族、子ども会、企業研修、新人研修、地域団体、防災意識の高い層
取組内容	・監査廊（ダム内部）の安全対策設備 ・治水と環境の学習プログラム ・ガイドによる自然観察プログラム ・防災キャンプ研修 ・火起こし、炊飯体験
期待される効果	滞在時間の延長、ファミリー利用の増加、日常利用の定着、満足度向上、再来訪の促進、学習利用の増加、教育旅行・校外学習の受入れ、公共施設としての理解促進
整備イメージ	監査廊(ダム内部)の安全対策設備 ダム内部の見学を安全に実施するための整備 治水と環境の学習プログラム パネルやクイズなど、ダムの役割や環境保護に関する学習プログラムの実施 自然観察プログラム ガイド付きの自然観察プログラムの実施 親子で体験的に学べる場の創出 防災キャンプ研修 防災士指導による火起こし・炊飯体験や防災キャンプ研修の実施 火起こし・炊飯体験
整備優先度	中

(4) 安全に歩いて楽しめる環境を整える	
概 要	・年齢や身体状況、移動手段にかかわらず、多様な人が竜門ダムの自然や景観を楽しめる受入環境を整えることを目的とします。 ・バリアフリー遊歩道や多言語サインといったハード整備に、バリアフリーコースの設定などを組み合わせることで、誰にとっても分かりやすく、使いやすい回遊環境を形成し、対象者の拡大を図ります。
ターゲット	主なターゲット：散策利用者、高齢者、障害のある人、子ども連れ家族 関連ターゲット：インバウンドを含む初来訪者、サイクリスト、健康づくり層
取組内容	・遊歩道（サイクリングロード）の舗装改善、照明整備 ・案内サイン、誘導サインの設置 ・湖面の観覧を図るための伐採 ・各種レンタル(自転車、電動自転車)
期待される効果	情報発信の拡散、来訪動機の強化、利用しやすさの向上、満足度向上、初回来訪の不安解消、回遊性向上、滞在エリアの拡大、周遊観光との接続、景観価値向上、安全性向上
整備イメージ	The illustration is divided into two main sections: 'ハード' (Hard) and 'ソフト' (Soft). The 'ハード' section includes '遊歩道(サイクリングロード)の整備' (Path improvement) with sub-points '舗装改善' (Paving improvement) and '照明整備' (Lighting improvement), and '案内・誘導サインの設置' (Installation of guide/signage) with '多言語対応' (Multilingual support). The 'ソフト' section includes '支障木や危険木、落ち葉等の処理' (Removal of obstacles, dangerous trees, fallen leaves, etc.) and '多様な移動手段のレンタル' (Rental of various means of transport). A central graphic shows a family walking and a person on a bicycle, with a goal to '安全に楽しめる受入環境を整える' (Create a safe and enjoyable environment). Below this, three boxes state: '安全・安心な移動の確保' (Ensure safe and secure movement), '分かりやすく使いやすい環境の整備' (Create an easy-to-understand and easy-to-use environment), and '利用者の拡大' (Expand the number of users).
整備優先度	中～低

(5) 食を通じて交流とにぎわいを生み出す	
概 要	・竜門ダム周辺を、景観を楽しみながら地元の食を味わえる滞在拠点として育てることで、地域経済への波及を高めます。 ・キッチンカーの受入環境や展望テラスの整備に、市内飲食店との連携や地元食材を活用したメニュー開発、定期的なマルシェ等を組み合わせることで、食の魅力を通じて来訪者の滞在時間と消費機会を増やします。
ターゲット	観光客、家族連れ、ドライブ客、地元住民、キャンプ利用者、市内の温泉利用者
取組内容	・週末や繁忙期のキッチンカー誘致 ・定期的なマルシェや飲食イベントの開催
期待される効果	消費機会の創出、イベント開催頻度の向上、地域経済への波及、宿泊滞在の増加、消費額向上
整備イメージ	The illustration depicts a vibrant outdoor festival or market scene. In the background, there are rolling hills and a clear sky. In the foreground, several food trucks (kitchen cars) are parked, with people interacting with them. One truck is labeled 'キッチンカー誘致' (Kitchen car attraction). To the right, there are market stalls with various goods, labeled 'マルシェや飲食イベントの開催' (Market and food event). In the center, a group of people is sitting on a picnic blanket, enjoying food, with a label '地元の食を味わえる滞在拠点として育てる' (Cultivating a stay spot where local food can be enjoyed). In the bottom right, another group is having a picnic, labeled '手ぶらBBQプランの造成' (Creation of a hands-free BBQ plan). The overall atmosphere is one of community and enjoyment of local food.
整備優先度	低

(6) 市街地や他の観光地との周遊体制をつくる	
概 要	・ 迫間川下流で進めている、「かわまちづくり」と連携し、河川の上流・下流を一体化して考え、情報発信することで一体的な利活用を進めます。竜門ダム周辺の活用を単独の政策に留めず、菊池温泉やウォーカブル構想を進める市街地観光と結びつけることで、回遊型の観光導線を構築します。これにより、点在する観光資源をつなぎ、地域全体への経済波及効果の最大化を目指します。
ターゲット	車を持っていない層、学生、団体旅行者、市内の温泉観光客、高齢者、レンタサイクル利用者、インバウンド観光客
取組内容	・ 景観修景 ・ キャラクターマンホールや像の設置 ・ フォトスポット（スマホスタンド、フォトフレームなど） ・ 市内温泉や飲食店との連携クーポン ・ 企業や学校、団体等向けの研修プラン ・ SNS 等での情報発信 ・ ワークーション受入れ ・ 周辺を結ぶスタンプラリー ・ 地域と連携した合宿受入れ環境の整備
期待される効果	利便性向上、満足度向上、宿泊滞在の増加、消費額向上、機会損失の減少、地域内回遊の促進、市街地消費への波及、滞在時間延長
整備イメージ	景観修景、キャラクターマンホールや像の設置 フォトスポット（スマホスタンド、フォトフレームなど）の整備 新たな滞在モデルの創出 企業や学校、団体向けの研修プランの案内やワークーションの受入れ、地域と連携した合宿受入れ環境の整備 地域連携・プロモーション 市内温泉や飲食店で使える連携クーポンの発行、周辺を結ぶスタンプラリーの実施 SNSによる積極的な情報発信
整備優先度	中～低

第3章 実施体制

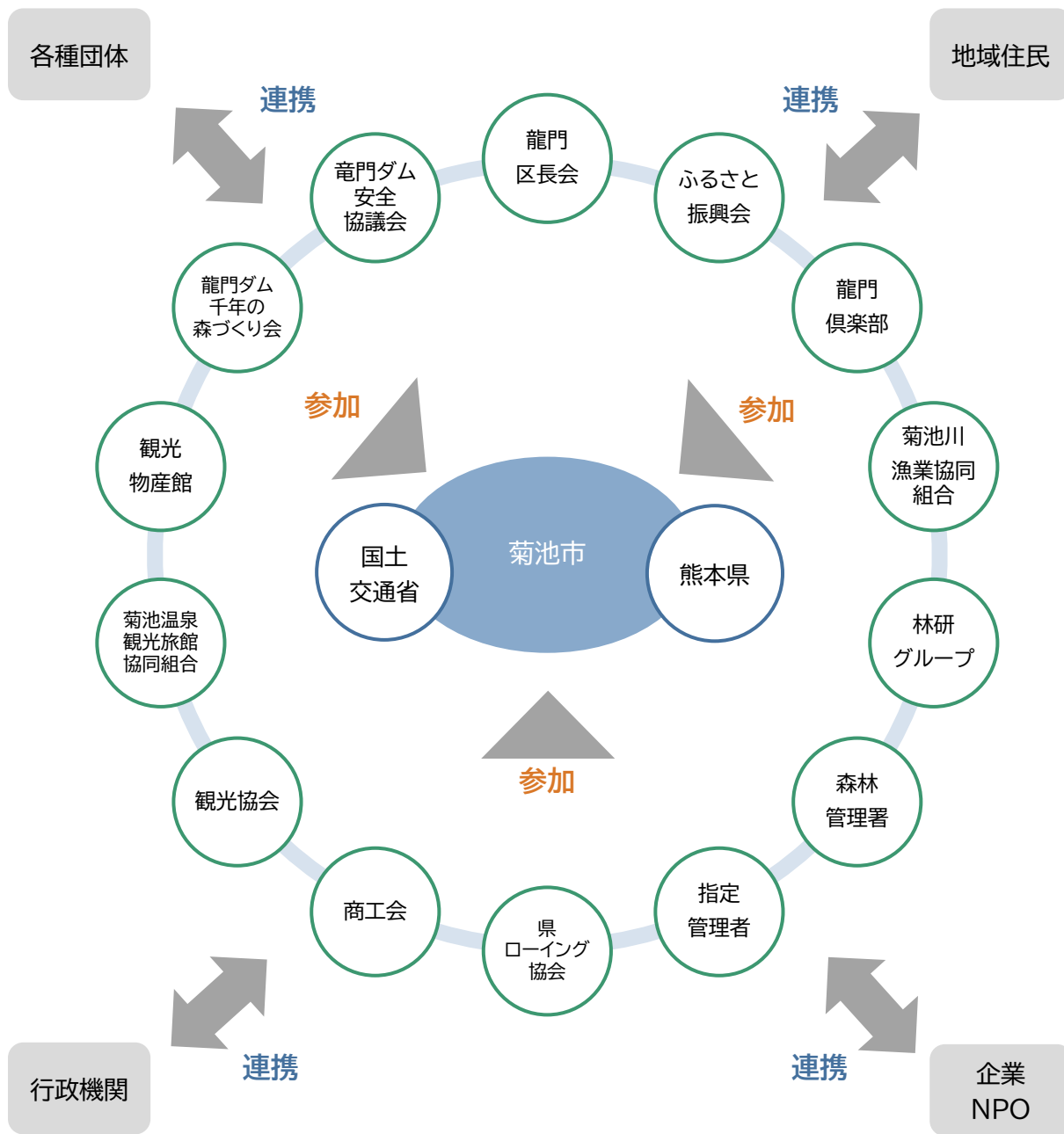
竜門ダム周辺の地域活性化を進めるために、以下のとおり役割分担のイメージを整理しました。

施策の実施のためには、行政だけではなくさまざまな関係者との連携が重要になります。

施策		連携と役割分担のイメージ
1	遊び・交流の快適な環境を 一体で考える	菊池市が整備、指定管理者が日常運営、龍門支館・龍門ふるさと振興会が地域イベントを担う
2	湖面を最大限に活用した 魅力的な拠点をつくる	ダム事務所が見学受入と安全管理、菊池市と指定管理者が連携内容を調整、観光協会が広報・情報発信、菊池川漁業協同組合及び県ローイング協会等との調整、地域団体・指定管理者が体験運営を分担
3	学び・防災に触れる入り口を つくる	ダム事務所が見学受入と安全管理、菊池市と指定管理者が連携内容を調整、観光協会が広報・情報発信、地域団体・指定管理者が体験運営を分担
4	安全に歩いて楽しめる環境を 整える	ダム事務所・菊池市・指定管理者が安全対策、林研グループや地域団体が保全協力、地域住民が見守り連携
5	食を通じて交流とにぎわいを 生み出す	指定管理者が予約運営、商工会等が食材面で連携、商工会が出店調整、観光協会と観光物産館が販促、指定管理者が現場運営
6	市街地や他の観光地との 周遊体制をつくる	指定管理者が予約運営、菊池温泉観光旅館協同組合が宿泊・入浴・送迎で連携、観光物産館・商工会がツアー商品造成

連携と役割分担のイメージにおいてプレイヤーとして参加することが想定される団体や関係機関、各種団体、地域住民、関連企業等の関係を図示すると以下のとおりです。

竜門ダム周辺地域活性化の実現に向けて、連携と協調を図りながら、各種取組を実施します。



■竜門ダム周辺地域活性化に向けた実施体制の全体像

第4章 取組実現に向けて

竜門ダム周辺地域について、「自然と景観を活かし、誰もが心地よく楽しめる竜門ダム周辺地域を目指して」を基本方針として掲げ、自然と景観の保全、多様な滞在空間の形成、周辺地域やまちなかとなつながら回遊拠点の形成に向けて、地域住民や関係団体とともに実現すべき方向性や取組を整理しました。今後は、施策や取組を具体化していくため、実施条件の整理や関係者間の調整等を進めていく必要があります。

① 施策・取組の推進

本基本方針に掲げる施策は、遊び・交流機能、湖面アクティビティ、散策・回遊、景観修景、回遊連携など多岐にわたる施策があります。そのため、優先順位を定めて推進することが重要になります。特に、要望の多かった栈橋や遊具の設置をはじめとした来訪者のニーズに応える基盤整備は優先的に対応すべきです。

また、イベントや情報発信、周遊企画など、比較的着手しやすいソフト面の取組には、早期に社会実験を実施し、効果や課題を確認しながら進めていくことが重要です。

② 関係者間の役割分担の具体化

竜門ダム周辺地域の活性化を進めるにあたっては、菊池市、国土交通省、指定管理者、観光協会、商工会、菊池温泉観光旅館協同組合、菊池川漁業協同組合、熊本県ローイング協会、地域団体、住民など、多様な主体との連携が前提となります。第3章では実施体制の全体像や、各施策の役割分担の方向性を示しましたが、今後は、取組ごとに実施主体と連携団体を調整し、整備後の維持管理や運営の担い手や費用負担・分担の考え方を整理する必要があります。

③ 安全管理と利用ルールの整理

竜門ダム周辺地域では、エントランス広場周辺の道路への枝の侵入、階段や遊歩道の滑りやすさ、夜間の暗さ、湖面へのアクセスのしづらさなど、安全面において複数の課題があります。

また、現在、ボート競技と釣りの利用はすみ分けられていますが、今後、湖面の利活用を進めるうえで利用者間の調整は重要な課題です。今後は、施設整備とあわせて、危険箇所の点検・改善、夜間利用時の安全対策、湖面利用ルールの整理などを関係者間で検討・調整のうえ、安全性を確保したうえで多様な利活用を実現する必要があります。

④ 継続的な見直しと地域と連携した取組の推進

竜門ダム周辺地域の活性化は、施設を整備すれば完結するものではなく、継続的に使い続け、改善し続けることで初めて実現するものです。そのためには、関係者による定期的な情報共有や進捗確認の場を設け、実施状況や利用状況、課題の発生状況を継続的に把握しながら、必要に応じて見直しを行っていくことが重要となります。また、地域住民や高校生、関係団体等が関わりながら、情報発信やイベント運営、景観保全、来訪者対応などに主体的に関与できる仕組みを育んでいき、「整備して終わり」ではない、地域に根ざした活性化を目指していく必要があります。